

～震災に強いまちづくりに向けて～

災害危険度判定調査結果のお知らせ

大規模な地震が発生した場合、建物の倒壊、火災の発生と延焼、避難道路の遮断など市街地における様々な被害が発生するおそれがあります。

これら被害の内容は、地区の地理的条件等により異なるため、どの地区でどのような被害に対する危険度が高いかをあらかじめ把握しておく事は、安全で安心なまちづくりを行う上で非常に重要であり、市民の皆さんが地震に備えるためにも大切な情報となることから、平成27年度に災害危険度判定調査を実施しました。

市民の皆様には今回の調査結果を参考に防災へのご理解を頂き、引き続き安心安全なまちづくりにご協力を頂けますようお願い申し上げます。

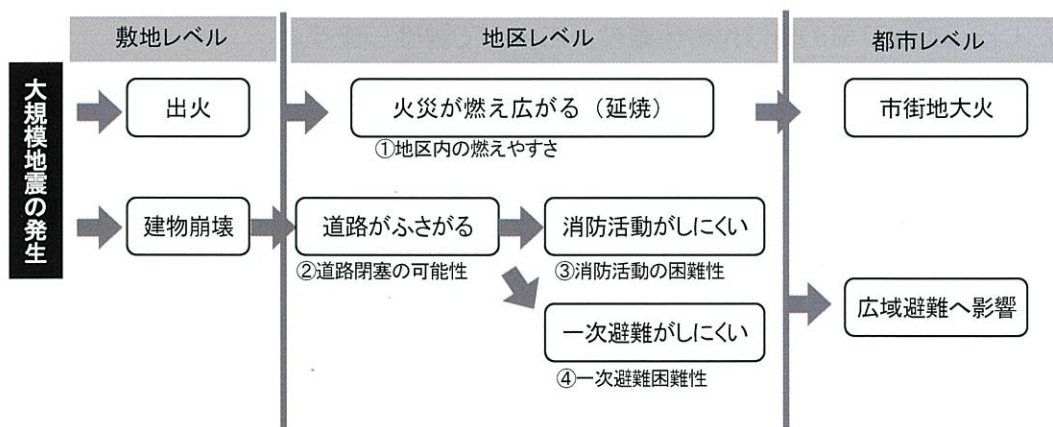
～災害危険度とは～

「**災害危険度**」とは、地震災害に伴う被害の規模を予測したものではなく、各地域が潜在的に有している災害に対する危険性を総合的に評価するものです。

災害危険度判定の評価内容

■ 建物や地区内道路等の状況から、火災に対する危険性、消防活動や一時避難の困難性、地盤状況等を評価

- ①地区内の燃えやすさ：不燃領域率、木防建ぺい率
- ②道路閉塞の可能性：道路閉塞率
- ③消防活動の困難性：消防活動困難区域率
- ④一次避難の困難性：一時避難困難区域率



写真提供：神戸市

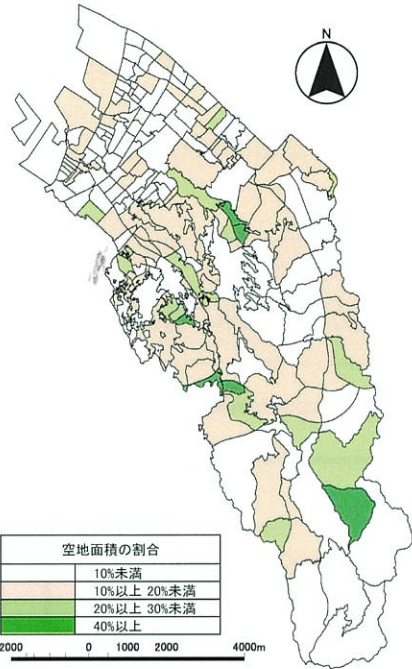
① 災害危険度判定調査に必要な評価指標

● 地区内の燃えやすさの評価

延焼危険度の拡大要因である地区内の燃えやすさを「不燃領域率」と「防火性能を考慮した木防建ぺい率」の組み合わせにより評価します。

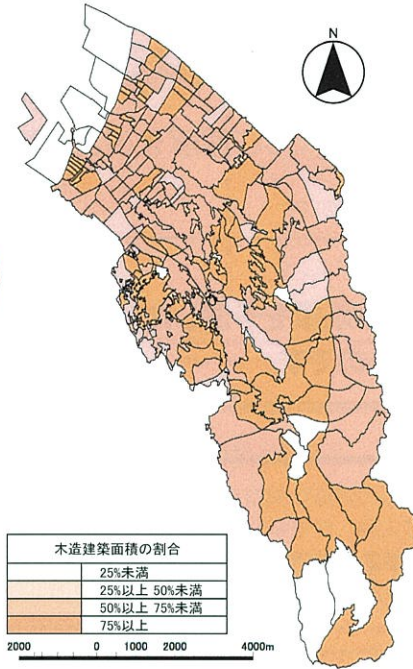
空地面積の割合

公園や畑、学校など延焼遮断効果のある場所を抽出しています。



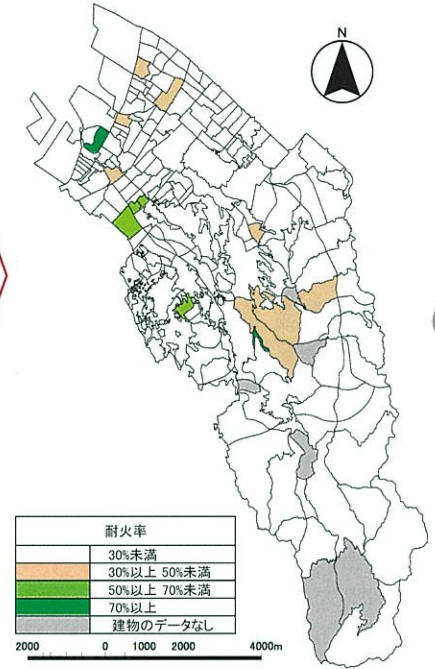
木造建築面積の割合

延焼に影響が大きな木造建築物の建築割合を抽出しています。



耐火率

全建物の建築面積のうち耐火建築物が占める割合を算定しています。

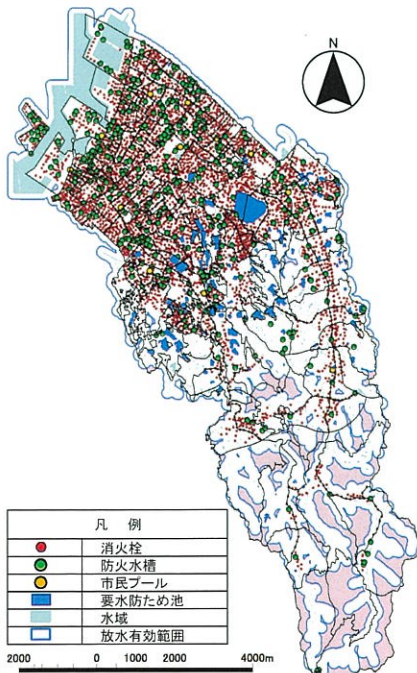


● 消防活動の困難性の評価

延焼危険度の抑制要素である消防活動について、「消防水利の状況」及び災害時の道路通過障害による「ポンプ車の駆け付け困難性」によって評価します。

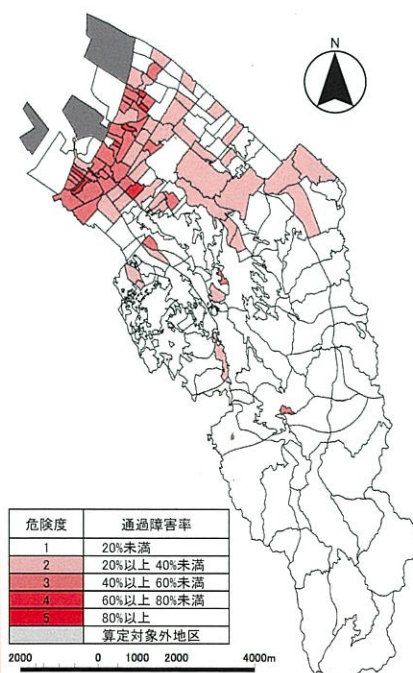
放水有効面積の算定

災害時に有効な消火栓やため池などの分布状況を抽出しています。



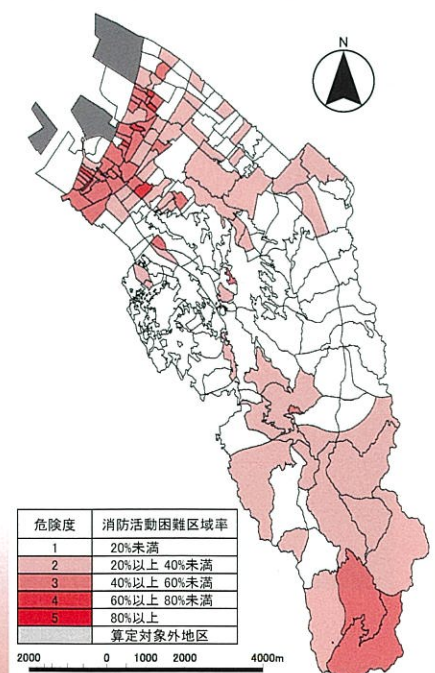
通過障害率の算定

災害時の倒壊建築物などによる道路の通過障害を評価しています。



消防活動困難区域評価

通過障害等による消防車両の通行障害等を評価しています。



※臨海部は主に工業用地として利用されているため、障害率等は評価していません（灰色網掛け地区）。

② 震災発生時における延焼の危険性に関する評価

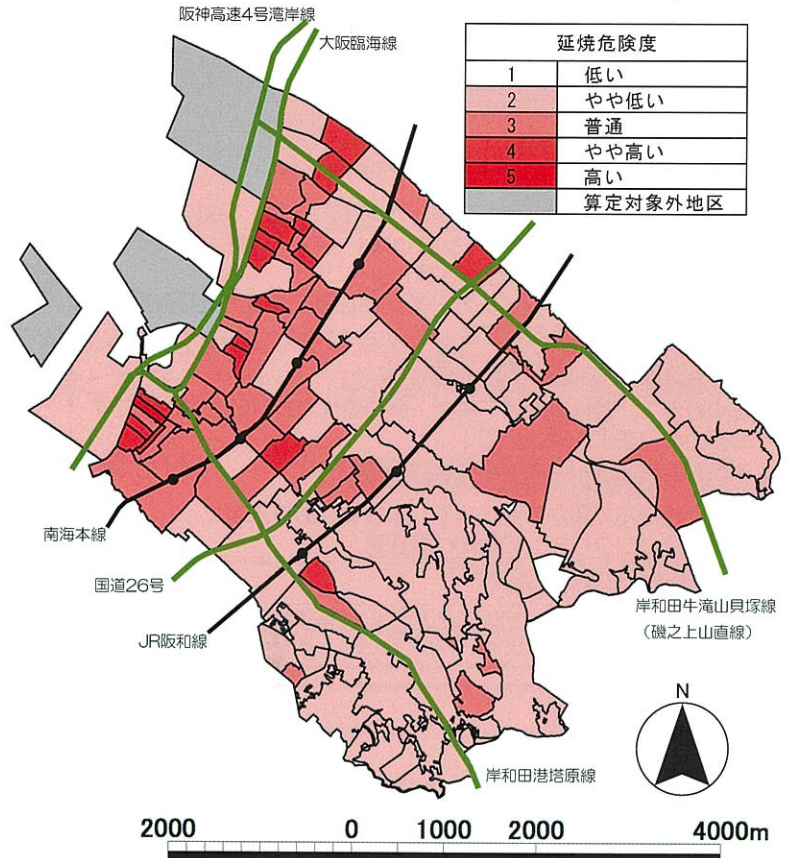
● 評価結果の概要

- ・国道26号より海側の地域で危険度5、危険度4の地区が多く見られます。
- ・木造建物が多い地域や広幅員の道路が少ない地域で危険度が高くなる傾向があります。



● 被害を軽減する身近な対策

- ・建物の新築や増築・改築の際には、防火性能の高い材料を使用するなど、燃えにくくするよう努めましょう。
- ・地域での防災訓練への参加などにより、防災に関する知識を深めましょう。
- ・防火水槽や河川・池など、災害時に利用できる消火用の水源を把握しておきましょう。
- ・消防活動の妨げとなる迷惑駐車・駐輪などはやめましょう。



※市域南部は大部分が山地部で、建物が少なく、市街地延焼となる可能性が低いため掲載しておりません。
 ※臨海部は主に工業用地として利用されているため、危険度を評価していません（灰色網掛け地区）。

③ 震災発生時における避難の危険性に関する評価

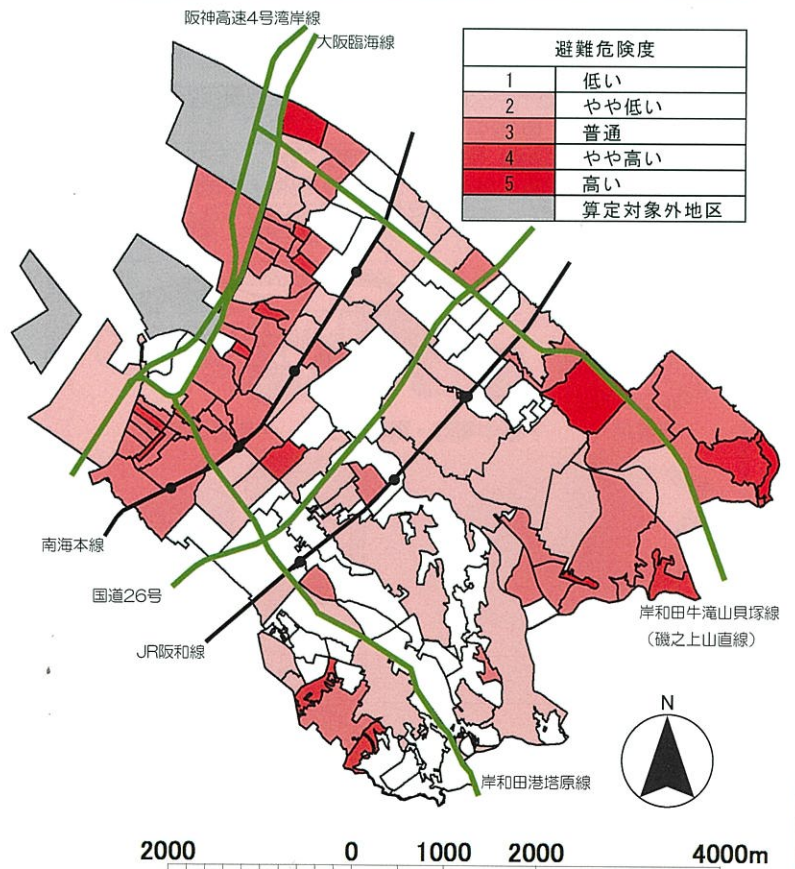
● 評価結果の概要

- ・国道26号より海側の地域で危険度5、危険度4の地区が多く見られます。
- ・木造建物が多い地域、広幅員の道路が少ない地域、および避難地から遠い地域で危険度が高くなる傾向があります。



● 被害を軽減する身近な対策

- ・避難場所や避難経路を確認しましょう。
- ・避難の際に障害となる箇所を知りましょう。
- ・平常時から非常持ち出し品などを準備し、定期的に点検しましょう。
- ・耐震診断により自宅の耐震性を知り、必要な耐震補強に努めましょう。
- ・危険を感じたときは火の始末をして、早めに避難しましょう。



※市域南部は大部分が山地部で、建物が少なく、市街地延焼となる可能性が低いため掲載しておりません。
 ※臨海部は主に工業用地として利用されているため、危険度を評価していません（灰色網掛け地区）。

④ 地震災害に強い岸和田を目指して

● 地震のときは

1. 落ち着いて！まず身の安全を

普段から家具などの転倒、移動防止策をしておくことが肝心
グラツキきたらしょうぶなテーブルや机の下へ

2. 素早く火の始末

揺れがおさまったらガスコンロやストーブの火を、素早く止める。火災による二次災害を防ぎましょう
避難の時は、電気のブレーカーを切ること、ガスの元栓を閉めることも忘れないようにしましょう

3. あわてて外へ逃げないで

瓦やガラス、看板等の落下物で、思わぬケガをするので危険です
周囲の状況をよく確かめて！

4. 窓や戸を開けて出口の確保確認

建物がゆがんで開かなくなってしまうことがあります
特に鉄筋コンクリートの建物は要注意！

5. 火が出たらまず消火

万一出火した場合は、初期のうちに火を消すことが大事

6. 狭い路地、ブロック塀に近づかない

ブロック塀や門柱、自動販売機などが倒れてくるので危険
このような場所には近づかない

7. 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意！

ラジオやテレビなどの情報に注意し、安全な場所へ避難する

8. 避難は徒歩で

決められた避難場所へ歩いて避難
なるべく集団で、荷物は最小限に

9. 協力しあって、応急救護

日頃から応急救護の方法を身につけ地域ぐるみで協力しあってケガ等の処置にあたろう

10. 正しい情報をみきわめて

うわさやデマに振り回されないように！
混乱しているときは、誤った情報が流れパニックが起りやすい
正しい情報は、ラジオ・テレビ・市の広報から

● 火災のときは

・火がでたら…

- 大声で知らせて119番
- 3分以内で火を消す
- だめだと思ったら迷わず逃げる

・安全に避難するポイント

- 天井に火が燃え移った時が避難の目安
- 避難の時は、お年寄りや子供、病人が優先
- 服装や持ち物にこだわらず素早く避難

- 炎の中は一気に走り抜ける
- 煙の中では、姿勢を低く濡れタオルで口や鼻を覆う
- 一度逃げたら絶対に戻らない

● 非常時の持ち出し品を準備しよう

男性なら15kg、女性なら10kgを目安に最小限必要なものをリュックサックなど両手があくものに普段からまとめておきましょう。※非常食品や医薬品は、使用期限が切れていないかチェックしておきましょう。

一次所持品【非常時にまず持ち出すもの】

- 貴重品（現金・預貯金通帳・証明書・印鑑・健康保険証等）
- 携帯ラジオ ● 懐中電灯
- 衣類（下着類1~2枚、タオル、紙おむつ等）
- 応急医療品（きず薬・絆創膏・常備薬・包帯・生理用品など）
- 非常食品（かんぱん・缶詰・ミネラルウォーターなど）



二次所持品 7日分程度【しばらくの間、自足する為のもの】

- 食品（米・缶詰・レトルト・菓子類など）
- 燃料（卓上コンロ・固形燃料など）
- 飲料水（煮沸してから飲む）
- お年寄りや乳幼児用食品も用意（粉ミルク・離乳食、流動食・お粥など。子供やお年寄り・病人のことも忘れないように）



お問い合わせ先

岸和田市 まちづくり推進部 都市計画課

TEL : 072-423-9629 FAX : 072-423-3347 E-mail : tokei@city.kishiwada.osaka.jp